



アングリカン諮問評議会常任委員会への報告

アングリカン・コミュニオン・フランス語ネットワーク

The Rt. Rev. ピエール・ウェルテ・ワロン、会長

The Rt. Rev.. マシマンゴ・カタンダ・ザチャリー、副会長

The Ven. デービッド・オリバー、会計担当

The Rev. マリー-エレヌ・ドラン、秘書

Le Livre de la Prière Commune:

翻訳は終了した。翻訳委員会に送られたゲラ刷りを調べた後、翻訳はチャーチ・パブリッシング社に送られた。新訳の聖書の各節は、バイブル・ヌーベル・フランセ・クーラントから引用されている。フランス語は現在、PDF形式でエписコパル・チャーチのウェブサイトで購入できる。これは、10年間のロビー活動の粘りを表すものであり、フランス語ネットワークが決定したガイドラインに従ったものである。

Lambeth :

2022年7月に英国のケント大学で開催された Lambeth Conference には、多くのフランス語主教が出席した。フランス語リソーステーブルがデービッド・オリバーにより立ち上げられ、ピエールとマリー・エレーヌは受け付けを担当し、私たちのフランス語圏の同僚や、カンタベリー大主教を含む多くの人々を歓迎し、多くの質問をしたり、サポートをした。

理事会が、カンタベリー・ロッジでの夕食にフランス語圏の主教とその配偶者を招待できたのは喜びであった。50人を超える方々が、未来への希望について議論しながら、楽しい夜を過ごした。

ネットワークのアーカイブ

修道僧らは以前資料をいくつか受領しているため、私たちは、ベック・エルルワン修道院がアーカイブしたリソースを受け取って保持していただけるかどうかを尋ねています。理事会はエマニュエル・ラカムをアーキビストに指名することを承認し、費用として計 1,000 ユーロを評決した。

刷新の必要性

夕食会で質問がいくつか出された：

我々の同僚はネットワークの将来についてどう考えているか。なぜもっと多くの人に関わらないのか。より若くて活発な人をリーダーにするにはどうリクルートすればよいか。

現在の理事会メンバーは長年務めているため、ネットワークのリーダーシップと進化を最終的に追求するのは誰なのかを見極めることがますます重要になっている。

フランス語の世界で

私たちのフランス語圏教会にとって世界で二つの差し迫ったニーズがある。それは、フォーメーションとコミュニケーションである。我々は実用的な翻訳を必要としている。フォーメーション担当のスティーブン・スペンサー師は、ネットワークに関する我々の活動とニーズを認識していなかったが、アングリカンの文書のフランス語への翻訳を推進しようとする私たちの努力に関心と熱意をみいだした。彼は、より間近の実用的なニーズが、「Of the Laws of Ecclesiastical Polity（教会政治論）」の翻訳よりも優先されるべきことについて、マシマンゴ主教と意見が一致している。彼は、ブラジルの会社が行ったセレクションを翻訳することを提案した。

ディボ・エランゴ主教は、カメルーンで聖職者のためのセミナーの講演をピエールに依頼している。

我々も、聖職者と配偶者のための年次会合（おそらくオンライン）の可能性について議論している。マシマンゴ主教らは、信頼できるインターネット接続が難しいことを指摘した。

次回総会

我々は、2023年にアフリカ、おそらくブジュンブラで総会を開く必要性について詳細に議論した。

我々は、対面ではなくバーチャルの会議を検討してきた。コストは低いが、接続という厄介な問題がある。メンバーは、サポートとコラボレーションの精神にとって非常に重要である対面の機会がほとんどない。続く・・・

敬具

マリー-エレヌ・ドラン

The Rev. マリー-エレヌ・ドラン

秘書



The Rt.Rev. ピエール・W. フロン

会長